

## 忠孝と信

有難いみ国と大慈悲

「おなじ人間に生れながら、私どもは有難いみ国に生を享けさせて頂いたものであります。」

こうした言葉は念仏行者の誰からも聞くことであります。念仏行者になって、いよいよ国土の御恩を仰ぐことが深いようであります。

み仏の尊い真実、大慈悲は、日本の国土の内面から影現して下さったのであります。日本こそいわゆる「大乘相應地」でありました。

日本に生れないでは、日本の有難いことはわからないでありましょう。私どもは、仏のお恵みを憶う時、日本国土のお恵みを念い、国土の尊さを憶う時、大慈悲の廻向の尊さを念じないではいられません。まことに大慈悲は国土と一体にたまします。

## 応現の仏

国土の内面に影現したもう久遠の如来は、国土の外面に、聖徳太子として、親鸞聖人として、その他、億々の聖者となつて、応現したもうたのであります。それらの仏たちは、その外面は、それぞれの時と所と人とに應じて、太子と云い、上人と申し、和尚と云い、大師と呼び、聖人と云うといえども、その本地はことごとくみ仏であります。日本国こそは、み仏の応現したもう国であります。

## 忠と孝

私どもは、たびたび、

「浄土真宗の人は、天照皇大神宮を拝むことをどう考えますか。」  
と云うような愚問を幾度となく受け取ります。

天照大神の尊さは、その御神勅の尊さであります。我が民族は、まことにこの尊厳なる御神勅を賜うたのであります。

「葦原ノ千五首秋ノ瑞穂国ハコレ吾カ子孫ノ王タルヘキ地ナリ宜シク爾皇孫就イテ治ラセサキク宝祚ノ隆エマサンコトマサニ天壤ト窮リナカルヘシ」

上御一人の宝祚の隆えますことは、そのまま日本の隆えることであります。国民の隆えることであります。されば教育勅語には

「我が皇祖皇宗 国ヲ肇ムルコト宏遠 二徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ」

と建国の宏遠深厚なるを示したまい、ついでそれが如何にして国民の上に成就せられたかを論じたまいで、

「我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ 億兆心ヲ一ニシテ 世々厥ノ美ヲ濟セルハ 此レ我カ国体ノ精華ニシテ」

と仰せられました。

忠と孝とは、まことに国体の精華であります。しかも忠をおいて孝なく、孝をおいて忠なく、忠孝一致の徳の尊さを思うべきであります。

天祖の御神勅に生きるとは、まことに忠孝の道を成就することであります。これをおいて天照大神を拝しても無意味であります。

### 信と孝

聖人の『末燈抄』には、

「善知識をおろかに思い、師をそしる者をば謗法の者と申すなり、親をそしる者をば五逆の者と申すなり、同座せざれと候ふなり。されば北の郡に候ひし善證房は親を罵り、善信をよう／＼にそしり候ひしかば、親づき陸まじく思ひ候はで近づけず候ひき。」

とあります。五逆を厳誡したもう中には、親には絶対孝行をつくせとの大慈悲が盛られてあります。

『宝悟記』には

「一。何よりも、親に不孝なる人は、蓮如上人第一御きらひにて候。又は不信の人には、蓮如上人は御見参あるまじきと、明應三四年の比より、被仰出されたる事に候。」

とあります。両聖の御意、頂戴すべきであります。

大無量寿経のみ教えは、この世の道の根本本質となつて、全ての道を成就して下さるのであります。信の徹底は、そのまま孝の成就であります。彼岸の親の前に下つた頭は、そのままこの世の親の前に下る頭であります。「孝行なれ」と教えられても不孝者であつた者も、如来金剛力に打ち砕かれては、内に悪逆に覚めて、ついに「何と言ふ不孝者であつたらう」と、親の前に手をつくようであります。

### 御恩に生きる

私の心の底には、まことに油断のならぬ恐ろしいものが動いております。深さの知れぬ暗黒一ぱいが貪欲で埋められています。一切の世間の暗はここに源をおいているのであります。こ奴が一度、頭をもたげれば、不忠、不孝、不信、等の一切が生れて来て、日本国という、皇室を宗家と仰ぐ大樹の葉を食い、幹に食い入る恐るべき毛虫となり、白蟻となります。忠と言ひ孝と聞かせただけでは、忠にもならず孝にもならぬどころか、不忠、不孝、不善すら知る能わざる、愚か者であります。

私どもは、幸にも、大無量寿経の教え、浄土真宗に遇うことが出来ました。み教えは、私の魂の底に巣くう、邪見我慢な自力をほのかに深信せしめて下さいました。そしてそれを通して、如来金剛の真心を廻向して、念仏を御成就下さったことを喜ばないではいられません。

念仏道に救われた時、我等は無有出離之縁の我を見出すのに、不思議にもおちつかして頂くことが出来ます。そしてただ御恩の深いことのみが残つて来ます。力一ぱい働かせて頂いて、黙つて国土の中に沈んで行くことが出来ます。有難いことであります。